

審議会等の会議結果報告書

課所名

都市計画課

会議名 第1回諏訪市上諏訪駅周辺地区基本構想検討委員会

開催日時 令和7年3月5日(水)午後1時30分 から 午後4時15分まで

出席者 (委員)
大沢 昌玄委員長、矢島 隆委員(途中退席)、今井 晴彦委員、大川 敦委員、上條 貴宏委員、鈴木 孝弘委員、山谷 恭博委員(途中退席)、矢口 泰秀委員
(事務局)
諏訪市:金子市長(途中退席)、樫尾建設部長、笠原街路区画整理係長、堀川主査、茅野主査、坂戸主任
株式会社 UR リンケージ:西村氏、正司担当部長、石川課長、南課長代理、池戸係長、吉田主任
(傍聴者)なし

資料
・次第
・第1回諏訪市上諏訪駅周辺地区整備基本構想検討委員会資料
・委員名簿
・座席表
・視察資料

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1.開会

(金子市長)

大雪警報が今朝で解除になったというお足元の悪い中、全員にお集まりいただきありがとうございます。市長に就任した直後に、諏訪市の大きな課題解決のために有識者会議を開催しました。その頃より、諏訪市の中核となる重要な整備として、文化センターの改修、西口を中心とした上諏訪駅周辺の整備、諏訪湖イベントひろばの整備を掲げ、検討を重ねています。文化センターについては、第一弾として詳細設計を進めています。駅周辺についても、本委員会にて皆さんと議論を重ね、検討していきたいと思えます。上諏訪駅周辺まちなか未来ビジョンの策定を受け、市民の機運も上げていきたいところですので、この後の現地視察も踏まえて、駅周辺地区整備基本構想の策定に向け、ご指導、ご支援、ご協力いただきたいと思います。

2.委嘱状交付

3.自己紹介

4.委員長選任

5.現地視察

6.上諏訪駅周辺整備基本構想及び検討委員会について（事務局より説明）

7.上諏訪駅周辺地区の現況について（事務局より説明）

8.現況特性についての意見交換

[質疑意見一括]

(A 委員)

検討スケジュールについては、説明資料のスケジュールを準拠しなければならないのか。

(諏訪市)

事務局としての想定スケジュールであるため、それに対してのご意見、加えるべき視点等があれば、ご意見をいただきたい。

(B 委員)

最終的に基本構想はどのように使っていく予定としているのでしょうか。令和8年度に策定した後に西口駅前広場の基本計画策定、実施設計、工事、供用開始と進んでいくスケジュール(案)となつていますが、基本構想の区域は駅周辺としたうえで、西口駅前広場の整備を目指す構想と捉えていければよろしいか。

(諏訪市)

市としては、先行して西口駅前広場からの整備を想定していますので、今回の対象区域にどのような施設・将来像が必要かを考え、令和12年度の西口駅前広場供用開始を目指している。

(C 委員)

基本構想の検討を進める中で、西口駅前広場から着手するのが必ずしも正しいとは言い切れないこともあるかと思いますが、そのような議論に応じてスケジュール等も見直していくという認識でよろしいか。

(諏訪市)

課題解決のために、西口駅前広場から整備することが妥当ではないとの判断となった場合には、全体的な計画を見直す必要もあると捉えている。

(D 委員)

西口駅前広場の整備が妥当ではないという判断になった場合、諏訪市の一体的整備として掲げている、文化センター・西口駅前広場・イベントひろばの三大事業が破綻するように市民に思われぬか。

(諏訪市)

西口広場整備は市の一体的整備として掲げているため、文化センターの次に着手することには変わりありません。ただ、基本構想について検討する中で、駅周辺のどこからアプローチするのが望ましいかを議論し、西口広場整備を進めていきたいと考えている。

(委員長)

西口駅前広場供用開始は令和 12 年度を予定していますが、整備後に実際に使用してもらえるような目標値を考えていく必要がある。新たな空間や機能を検討する際は、整備して終わりにならないように、将来を見据えた目標値を念頭に置くのがよい。整備した時の利用者が一番多いようでは困るため、利用者を増やし続ける、育てる目標値を設定していただきたい。諏訪市ではエリアプラットフォームが立ち上がっているため、そのような団体に活かし続けてもらえると理想的である。

(C 委員)

東西の駅前広場をみると、バスだけでも広域から市内循環等、多様な路線が存在しているが、最近ではキックボード等の新たなモビリティも出現している。そのような存在が将来の交通状況や利用にどのような影響を与えるか、時代の変化に合わせて考えていく必要がある。

(諏訪市)

必要に応じて、今後調査することも検討していく。

(委員長)

100 年に一度の自動車変革期とも言われている。長野県ではリニア新幹線の開通も見据えているため、そのような将来の変革に合わせて、駅前広場のニーズについても考えていくのがよい。

(委員長)

説明資料では柳並駐車場の土曜日の利用率が 90%以上とのことですが、何か理由は考えられるか。

((株)UR リンケージ)

一日最大料金 500 円で利用できるため、長時間駐車する方の利用が多いのではないかと推測される。

(E 委員)

諏訪市では、諏訪湖の花火大会が市内行事で一番の集客力を持っている。それだけを目的とするの

ではなく、花火大会をきっかけにして諏訪の魅力に気付き、諏訪に来てもらうことが重要と考えている。ただ、花火大会時には駅が大変込み合うため、職員も苦戦しており、お客様にもご不便をかけている状況である。そのような状況の改善の余地も今回の基本構想で考えられるのか。

(諏訪市)

花火大会時には、JR 様にご協力いただき上諏訪駅西口に臨時改札を設けているものの、長蛇の列が伸びている現状にある。そのような人の流れを解決できるような滞留スペースも西口駅前広場で検討していきたい。

(委員長)

利用のピーク時を見据えることは大変悩ましいが、イベント時と平時が転換できるような空間であると日常的な利用も考えられる。ピークイベント時の利用という視点も現況に追加整理できるとよい。

(委員長)

ここからは、各委員の専門的な視点から、意見交換をお願いしたい。

(E 委員)

今回の対象区域には JR 用地・施設が含まれている。将来の諏訪市の発展を見据え、できる限り協力したいと考えているため、対象区域内の施設は機能回復が確保されれば、自由に考えてもらってよい。ただ、西口への改札設置については、今後生産年齢人口が減っていくことを見据えると、改札を増やすにも担手の確保が難しい現状である。DX 活用や機能集約等も踏まえ、コンパクトな駅運営も念頭に考えていきたいと思う。

資料にもある通り、上諏訪駅の乗降人数は 3,800 人程度でその 2/3 が定期利用という状況である。その反面、駅からバス等の二次交通利用は 400 名程度で、駅との往来は送迎によるものが多いと考えられる。そのような特徴を踏まえてターゲットを検討するなど、送迎でなく公共交通利用を増やしていくような発想も考える必要がある。また、諏訪市全体で公共交通を駅にどのように位置づけにするのが重要となる。その観点を諏訪市からお示していただいたうえで、方向性を議論していきたいと考えている。

(D 委員)

資料にもある通り、東口の動線が錯綜しているのは、キャパシティーに対して広さが不足しているからと感じる。西口は、ある程度の広さが確保されており、諏訪湖へのアクセスも良好ですが、東側から抜けるには踏切を越えないといけない。花火大会時の来場者数を考えると、東西のアクセス性は喫緊の課題と捉えている。東西での人口の差は、3:7、2:8 程度で西の方が多いと推測される。朝晩の送迎で西側の居住者が東側に来る際に、国道が渋滞していることから、観光面だけでなく地元住民の利便性の面からも西口駅前広場の整備は重要と考える。

上諏訪まちなか未来ビジョンプラットフォームでは、末広通りから検討を進めていますが、今後は湖明館通りまで範囲を広げることも議論している。公民連携のエリアプラットフォームが存在しているので、諏訪市の考えと民間の考えをマッチングさせるように検討していきたいと思う。

バスについて、昔は東口駅前広場に進入していましたが、車両の大型化に伴って駅前広場に進入できなくなり、国道 20 号沿いにバス停を設けたという経緯がある。私も交通事業者としても動線の複雑化は問題点として認識しているため、JR、諏訪市の考え等を踏まえ、東西の機能分担を考えていく必要があると考えている。

(F 委員)

現状、西口駅前広場を通るのは市内の路線バスのみで、高速バス、岡谷茅野間を結ぶバスは国道20号沿いのバス停を利用している。その背景として、高速バス、岡谷茅野間のバスは経路的に西口駅前広場に乗り入れる適切な道路がないという現状がある。仮に西口駅前広場が整備され、十分な広さのバスターミナル等が確保されても、すべてのバスを集約するのは周辺の交通課題等から困難であると推測する。また、そのような課題が将来的にクリアできても、乗務員不足という現状があり、理想的な運行本数充実化やターミナル集約への対応は難しい可能性があるため、需要予測を考慮しながら検討いただきたい。

(委員長)

需要があっても交通事業者の担い手がいない現状があるため、担い手の確保も考える必要がある。

(B 委員)

近年のまちづくりは、時代の変化に伴い作り育てることが重要であり、特に地方都市では人口減少が進む中で作った後の使い手を考えていく必要がある。居住人口の減少と同時に、交通事業者のような供給サービス側の人員も減少していること、自治体側の対応人員の減少や財源といった現実的な課題も念頭に置いておくべきである。作る際には、国の補助金等を活用できるが、その後の維持管理、運営の財源確保や手法を考えておく必要がある。上諏訪まちなか未来ビジョンプラットフォームが主催となった昨年秋の社会実験では、空き家・空きスペース活用の取組を行っており、西口駅前広場でマウンテンバイク試乗体験をしていたのが印象的であった。スケジュール(案)でも社会実験が想定されているが、どのような事柄に人が訪れるのか、どのような活用方法があるのかをお金をかけずに試行し、実現に繋げていくやり方がよいのではないか。

(A 委員)

観光来客者数が長野県の中で3位というデータがあったように、諏訪湖が身近であることで観光需要が高いと考えられます。また、上諏訪駅は諏訪エリアの3駅(岡谷駅、下諏訪駅、上諏訪駅)の中で一番諏訪湖に近い立地となっているため、観光地目線での広場整備も考えられる。柳並線開通により、西口駅前広場から少し出ると諏訪湖まできれいに臨めるため、ぜひ有効活用できたらよいと思う。西口駅前広場が整備され、高島城や並木通りに向かう人が増えると推測すると、その間に位置していて、並木通りの視線を遮ってしまう存在である保線技術センターのあり方を見直せるとよいと思う。動線や活動等、人の動きをイメージしながら基本構想を検討していくべきであるため、社会実験等で試行していく必要があるのではないかと考えている。

(C 委員)

対象区域は、JR と諏訪市と土地開発公社の所有地であるため、その三者の積極性が重要と考える。現状では、施設配置や土地利用が上手くできていない印象のため、時代の変化を踏まえ、大胆に検討していただきたい。上諏訪駅周辺は諏訪市の中でも最も公共交通が充実している場所である。最近では、駅に保育施設や市役所の機能移転をしている例もあるため、商業機能・業務機能に捉われず、トレンドやニーズを見据えていけるとよいと思う。

諏訪湖が近いことは特徴であるため、諏訪湖の玄関口であることを活かす目玉があるとよいのではないか。例えば、諏訪湖上を走る水陸両用バスが駅から発着できる等の魅力的な仕掛けも案として

考えられる。

(委員長)

諏訪湖の玄関口というポテンシャルはぜひ活かすべき。また、西口が中心となり諏訪湖と末広・小和田エリアを結ぶことも重要という意見を委員からいただいた。そのためには、社会実験等で試行して需要を把握することや、眺望確保のための施設の見直しに向けた各地権者と調整することも必要ではないかということです。

(委員長)

駅は交通結節点であることはゆるぎないが、例えば、ホテル等の送迎バスがあずさの発着に合わせて来ると駅の滞在時間が少なくなってしまう。それはもったいないので、駅で時間を過ごし、目的地になるような機能があり、新たなライフスタイルを生み出すような場にする必要がある。地方都市として人口減少は避けられないのは事実であり、進学や就職の世代が流出することはやむを得ない。高校時代に地元で素敵な思い出を作り、将来的に帰ってきてもらえるような場所であることが理想的である。先日のワークショップにも学生が参加しているようなので、そのような若い人の意見も尊重するという視点もあるとよい。

(B 委員)

長野県内では、小諸市の支援もしている。小諸駅には昔、特急が停車していたが、現在はしなの鉄道の駅となったことで、以前と比べると駅に求められる機能が変わってきている。そのような、時代の変化に合わせていくことも重要と考える。昨年の秋に実施した諏訪市の社会実験時は、近隣市町村から訪れている人もいたようだが、駅を利用している人は少なく、自動車での来訪が多かったようだ。駅前広場の送迎ニーズはあるが、駅前の駐車場ニーズはあるのか考えていく必要がある。

(委員長)

車社会であることは事実であるが、ライフスタイルの変革期でもあるため、人のためのスペースを考えていくことも重要な視点である。

(A 委員)

市民意向等踏まえると、東西のアクセス性向上は重要なポイントだと思うが、西口への改札設置だけでなく、橋上駅化という選択肢もあるのか。

(諏訪市)

橋上駅化もひとつの手段ではあるが、橋上駅の場合には費用や維持管理等の様々な課題があり、市だけでは決められない点がある。本委員会での検討や関連事業者等との議論の中で、真に必要な手段であれば講じる必要もあると考える。

(E 委員)

昔の橋上駅舎というと、バックヤード施設も含めて橋上化しており、費用もかさんでいたが、昨今の橋上駅舎はコンパクト化しているところもある。橋上に改札があれば、改札を出てすぐに諏訪湖が見えるという利点も生まれ、花火大会等をきっかけに諏訪を訪れた人が魅力的に思ってもらえるのではないか。

市民意向では飲食店やカフェがあるとよいという結果が出ているが、駅を基点にして、駅からまちなかに回遊してもらう仕組みも必要と考える。また、高校生がお金を使わずに時間を過ごしたり、勉強で

きるスペースを提供するなど、ハコモノを増やしすぎず、作ったものの使い方を考えるようなソフト的な施策も考えてもらえれば、JRとしては、自由通路を前提とした橋上駅舎も検討の余地がある。

(委員長)

ソフトの施策で工夫を凝らしていくことも重要である。既に駅前交流テラスすわっチャオは高校生の居場所としてのポテンシャルが高いが、西口にも同じものを作ればいいわけではないので、それを踏まえて、東西の役割分担をどのようにするのか考える必要がある。

(委員長)

委員から出された意見をまとめると以下のとおりとなる。

・現時点でのイベント時等、ピーク時の駅の役割や対応を整理し、ピーク時と平時の使い方を転換できるとよい。

・駅は交通結節機能であるものの、東口駅前広場の面積が足りていないということを踏まえて、西口との役割分担を考える必要がある。一方で、利用者のニーズに対応したり機能移転したりしても、交通事業者等の担い手不足という問題点があるので、それを考慮する視点も必要である。

・諏訪湖の眺望、諏訪湖に一番近い玄関口であるというゆるぎないポテンシャルを活かすことと、末広・小和田エリアとの繋がりも考えていくべきである。

・駅前広場のキャパシティについては、モビリティの変化に合わせた定量的評価も考えていけるとよいと思う。

・対象区域の地権者である、JR・諏訪市・土地開発公社で認識のすり合わせを行いながら、大胆な土地利用を考えていけるとよい。

・駅を基点にまちなかをどのように回遊してもらうかや駅での余韻の時間を楽しんでもらう空間も必要である。

・本日の意見を踏まえて、事務局として基本構想に反映させてもらえるとうるかと思う。

(諏訪市)

今後、いただいた意見を踏まえて、事務局で検討を進めていく。

9.閉会